

「中国 民衆法廷」のためのミヒルグリ・トゥルスンの陳述書

私の名前はミヒルグリ・トゥルスンです。1989年、東トルキスタン（公式名は新疆ウイグル自治区）の南部チェルチェン県で生まれました。ウイグル民族です。12歳のとき、ウイグル人の子供を青年期から中国国内に移住させるという中国政府のプログラムのもとで、中学に入るために広州に連れて行かれました。プログラムの目的は、ウイグルの子どもたちを漢民族の学校に入れて中国化する政策の一部でした。ウイグル語、ウイグル文化の環境から切り離し、中国人の生活様式を身に着けさせるというものです。しかし、実際のところは、このプログラムを通して、自己の民族性に対する意識が高まりました。中国の都市にある中国の学校で若いウイグル人として常に差別を受け、侮辱されることで、自分は大多数の漢民族とは異なることを認識させられたのです。

広州の大学に進学し、経済学を学び、アラブ諸国と貿易する私営企業に勤務しました。2011年12月、エジプトにある英国大学に登録し英語を学びました。そこで主人と出会い、2015年3月に健康な三つ子を生まれました。2男、1女でエジプト市民となりました。三つ子の世話が大変だったので、2015年5月4（13?）日、両親の手を求めて生後2ヶ月の三つ子を連れて中国に向かいました。

ウルムチの入国管理に入るやいなや、尋問のために部屋に連れて行かれ、子どもたちから引き離されました。当局はエジプトで私が誰に会い誰と話したかを尋問し続けました。そして手錠をかけられ、黒頭巾を被せられ、拘置所に連れていかれました。そこに3ヶ月間拘留されました。7月のある日、子どもたちが病気なので仮釈放されると言われました。健康状態が回復するまで子供たちと一緒にいて良いと言われましたが、私はまだ調査の対象であると警告されました。パスポート、IDカード、携帯電話は押収されました。子どもたちに会いに直接病院に向かいました。長男は救急室におり、ガラスの窓を通してのみ見ることができました。近づくことは許されませんでした。翌日、医師が合併症による息子の死を告げ、亡骸が渡されました。

三人の子どもたち全ての首の部分に手術の痕跡がありました。食事ができなかったので、首から管を入れて食事を与えたと言われました。エジプトを出る前は何の問題もなく母乳で育てていたのです。なぜこのようなことをしたのか理解できませんでした。

二人の子供たちも合併症に陥り、翌数カ月は治療に専心しました。娘は目の手術も受けました。私の書類は全て当局に押収され、私の名前はブラックリストに載っていたため、エジプトに戻ることはできませんでした。IDカードにはバーコードがついており、病院、薬局、バスで使うたびにビーと音を立てました。このたびに警官が私のカードをチェックし、私の行動を承認しました。

2017年4月、新疆チエルチェン県の家で生活しているとき、警官に再び拘置所に連行されました。エジプトで何をしたかを尋問するためです。4日間、公安部の役人により、日夜にわたり睡眠を剥奪され、尋問されるという拷問を受けました。頭を刈られ、身体を検査されました。精神病院に移されるまで3ヶ月ほど幽閉されました。よく失神したからです。その後、父が私を家に連れて帰り、世話をしてくれ、少しずつ回復しました。

2018年1月、理由なく三度目に拘留されました。手錠と足かせをかけられました。病院に連れて行かれる前に黒頭巾を被せられました。裸にされ巨大なコンピュータ化された機械に入れられました。女性一人と男性二人の役人が裸の私の身体を検査しました。そして青の囚人服を着せられました。54と書かれていました。中国人の役人が、この服は通常、死刑囚か終身刑の重犯罪者が着るものであり、54は中国語では「我死」と同じ音であると念を押しました。

とても恐ろしくなり、これで自分は終わり、ここで死ぬと思いました。約三日三晩、尋問されました。同じ質問を受けました。「誰を海外で知っているか？誰と親しいか？どの機関のために働いているのか？」国外に住み、外国語をいくつか話せるので、私にスパイのレッテルを貼ろうとしました。かれらに叩かれ、手は血で滲みました。2回、薬を処方されました。彼らは私の口に指をつっこみ、私が服用したことを確認しました。これらの薬を飲んだあと、意識が薄れ、疲労感が広がり、食欲を失いました。

それから地下の窓のない監房に連れて行かれました。鉄格子があり、扉はコンピュータによる栓錠システムで開閉しました。小さな通気口が天井にあるだけで、新鮮な空気を吸うために外に連れ出されることは一切ありませんでした。部屋の片隅に用を足すための器があり、トイレトペーパーはありません。トイレの場所を含めて、四隅にカメラが設置されており、役人が部屋の隅々を監視していました。照明が一つ、常に点灯していました。

40メートル四方の監房に約60名が拘留されており、10～15名が立ち、残りの者は片側を下にして隙間に横たわり、2時間おきに交替しました。1年間シャワーを浴びていない人もいました。最初の夜はとても辛いものでした。手錠と足かせを長い鎖につなげられ、狭いスペースに他の女性と一緒に押し込められ、一体私は何をしたのだろうかと思いました。罪状も説明もなく、なぜ私はここにいるのだろうか？自分の罪はなんだろうか？なぜこれほどまでの非人間的な扱いを受けなければならないのだろうか？プライベートな場所で用を足し、トイレトペーパーを使うことがなぜできないのか？シャワー、少なくとも洗顔の水がなぜないのか？十分なパンや水をなぜもらえないのか？

毎朝5時頃、大きな目覚ましの音で起こされました。共有した6枚の毛布を畳まされました。毛布がきちんと左右対称に畳まれていなかったら、監房すべての囚人が罰せられました。毛布が取り上げられ、セメント敷の床に直接横たわらなければなりません。

朝食（水とわずかな米）の前に、中国共産党を讃える歌を歌い、「萬歳習近平」「坦白從寬 抗拒從嚴」（自白した者は寛大に 抵抗する者は厳重に処分する）を繰り返し言わされました。収容所の規則の暗記に7日間、共産党のイデオロギーを讃える本の内容全ての暗記に14日間与えられました。声がか弱いか中国語で歌えないか収容所の規則を暗記できない女性は、食事を与えられないか殴られました。一日三回の食事のはずですが、一日中食事がもらえないこともありました。食事と言っても、ほとんどが蒸しパンでした。収容所の人間が増えるに連れ、蒸しパンの大きさは小さくなりました。果物や野菜は一切ありませんでした。

不明の錠剤と白の液体を強制的に服用させられました。錠剤は意識を失わせ、認知力を低下させました。白の液体は生理を止めました。出血多量となる女性もいて、死に至る場合もありました。監房の日常生活のひどさが十分ではないかのように、私はタイガーチェアとして知られる電気椅子のある特別な部屋に連れて行かれました。尋問室で、照明一つと椅子一つがありました。壁にはベルトと鞭がかかっていた。ハイチェアに座らされ、腕と足を固定され、彼らがボタンを押すことで締め付けられる仕組みになっていました。ヘルメットのようなものを被せられました。感電させられるたびに、全身が激しく震えました。静脈に痛みが走りました。

この拷問を受けるよりも死んだほうがましだと思い、殺してくれと頼みました。罵りの言葉で侮辱され、私が自分の罪を認めるまでプレッシャーをかけましたが、実際に、私は、国外で政治活動に参加したことはありませんでした。すると、心理的に私を攻撃しました。「お前の母は亡くなり、父は終身刑だ。息子は病院で亡くなった。娘の目は永久に斜視で、通りに投げ出されるだろう。おまえが面倒をみなかったからだ。お前の家族は離散した」

娘として、母として、実に辛い攻撃でした。罪悪感に苛まれ、自分には生きる価値がないと感じました。私は泣きながら殺してくれと頼みました。その後は覚えていません。口から泡を吹き、意識を失いはじめました。最後に覚えていた彼らの言葉は「ウイグル人であることが犯罪なのだ」でした。私は気を失いました。

最初に210号の監房に入ったとき、17歳から62歳の女性が40人いました。毎日さらに人が増え、私が約3ヶ月後に出所するときは68名の女性が収監されていました。

監房のほとんどの女性は知り合いでした。近所の人、恩師の娘、医師などで、英国で教育を受け私が診察を受けたことのある医師もいました。教師か医師など、高い教育を受けた専門職の人々がほとんどでした。

私にとって最も辛い日々は、同じ監房にいた人の苦悶と死を見ることでした。収容所の夜は最も多忙です。監房の移動や死体の除去は夜行われました。夜の静けさの中で、苦しみから唸る男性の声が他の監房から聞こえました。殴打、男性の叫び声、さらには、廊下に引き出された人の音が聞こえました。手首と足首につけられた鎖が床に触れ、大きな音を立てたからです。自分の父親か兄弟かもしれないという思いは耐え難いものでした。わずか3ヶ月で、同じ監房に収監された68人のうち9名が死亡するのを目撃しました。小さな省にあった210号という小さな監房で、3ヶ月に9名が死亡したのです。私の国全体で何人が死亡したのか想像もできません。

一人の犠牲者は、ガルニサという名前の62歳の女性でした。手は震え、体中が鞭で打たれ赤く腫れていました。何も食べることはできません。重病でしたが、収容所の医師は彼女を健康と診断していました。収容所の医師は、患者が健康であるということになっていました。病気であると診断したら、患者に同情しているか支えようとしていると見られるからです。ある晩、ガルニサは中

国語で暗唱できなかつたことで罵られ、泣きながら寝入りました。その夜いびきはかかず、翌朝彼女を起こそうとしたら身体はとても冷たくなっていました。寝ている間に亡くなったのです。

パテムハンという名前の23歳の女性がいました。母は亡くなり、夫、父、弟は皆収容所に連れられました。彼女の罪は2014年にイスラム教の伝統に従った結婚式に参加したことでした。踊ったり歌ったり酒を飲むことをしない式でした。式に参席した400名は全て逮捕され、収監されたといっていました。連行されたとき、二人の子供を裏庭に残しました。収監されている1年3ヶ月、毎日子どもたちの居所を思い、苦しんでいました。1ヶ月以上出血していましたが、治療は拒否されました。ある夜、他の女性たちと一緒に立っているときに、突然倒れ、息を引き取りました。マスクをした人が数名来て、彼女の足を引っ張り、連れ出しました。

拷問、苦悶を経て、210号の監房から生きて出られるとは思いませんでした。今も信じられません。釈放されると言われる2時間前に、不明な液体を注射されました。徐々に私を殺害するものだと思い、あと何分生きるのか、数え始めました。当局の役人から、私が読み上げ署名する文書を渡されたとき、まだ生きていることに驚きました。私はそれを読み上げ、宣誓し、彼らはそれを録画しました。書類には「私は中国市民であり、中国を愛します。中国を害することは一切しません。中国が私を育てました。警官は私を尋問、拷問することなく、拘束することはありませんでした」。子どもたちをエジプトに戻したら私は中国に戻らなければならないと警官に警告されました。私の両親、兄弟、他の親戚は彼らのなすがままにあると念を押されました。

2018年4月5日、3ヶ月以上経過し、出獄し、子どもたちに会えました。両親はいませんでした。どこにいるか尋ねることも許されませんでした。三日後、二人の子供とともに故郷を去り、北京に20日間滞在しました。書類がないということで、搭乗を3回拒否されたからです。4度目に搭乗でき、4月28日にカイロに到着しました。自分が何をしていたか分からず、深い痛みを感じました。両親も兄弟も収容所にいます。中国政府は私が中国に戻らなければ私の家族を殺害する可能性があります。しかし、戻れば、監獄で死ぬことを意味します。中国政府が私の両親・兄弟を収監し、殺害する可能性は変わりません。

勇気を振り絞って、中国の隠された強制収容所について世界に告げることを決意しました。私や他の者を拷問した人々が、自分のしたことにより罰せられるためです。

多くの素晴らしい人々の助けで、米国に来ることができました。2018年9月21日、バージニアに到着したときの気持ちは言葉では表せません。自由を得た喜びと深い混乱で一杯でした。現在二人の子供と一緒に米国に住んでいます。強制収容所にはいませんが、収監のトラウマと中国政府からのいやがらせからは解放されていません。強制収容所での恐ろしい日々を思い出し、突然恐怖と不安にかられる生活を送っています。

子どもたちは肉体的にも精神的にも問題があります。誰かがドアをノックすると怖がり、私から離れることを恐れます。今も絶え間ない殴打の痕跡があり、鎖で繋がれていたため、手首と足首の痛みがあります。殴打のため右耳は聞こえなくなりました。暗闇を恐れますが、眩しすぎたり音があることにも恐怖を感じます。パトカーのサイレンは不安を与え、心拍が高まります。時折、息切れがし、体全体の感覚を失い、心が痛みます。悪夢にもうなされます。ここは安全だと言われても、夜間に中国政府がドアをノックし、連行され殺されるのではないかという不安にかられています。

中国政府の役人が今も私を監視していることを恐れます。数週間前、中国人のグループに家から車に乗っても尾行されました。また中国政府は弟（兄？）に私に電話をかけさせました。中国から持ち込んだ携帯にメッセージが残されていました。「両親と我々にどうしてこのようなことができるんだ？それでも娘なのか？中国大使館にすぐ行き、ラジオ・フリー・アジアのインタビューで中国政府に関して言ったこと全てを棄却し、中国を愛すると言うべきだ。米国のウイグル機関から圧力を受け、収監や拷問の虚言をしたので、発言の全てを撤回すると語るべきだ。さもないとどこに隠れていようと、中国はおまえを捕まえる」

中国政府が、これほど遠方にいても私を威嚇できることに恐怖を感じました。アメリカで新生活を始めるところです。学校に行き、仕事をし、息子と娘を育てます。しかし、中国政府が私を痛めようとすることに、今でも恐怖を感じています。